

令和6年度学校評価報告書

学校名(廿日市小学校)

評価計画				自己評価						学校運営協議会	改善方策	
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析	委員評価コメント		
①確かな学力の育成	◎自ら学び、自ら考え、 創意工夫して相手に わかりやすく表現し ようとする態度を身 に付ける 【小中共通】	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体的な学びを促す 単元づくりを進める 児童の実態把握に基づいた 授業改善を行う。 【小中共通項目】 自主家庭学習の取組を進め る 研究授業を行う 	「自分の力に合った内容や方法、学習の進み具合などを選んで学習を進めている」と回答した児童の割合(自己選択・自己決定) <児童アンケート>	90	88.9	92	100	A	92%の児童が肯定的な回答であり、目標値を上回ることができた。2学期以降、各学年で自由進度学習を実施したり、日常的に多様な選択肢を設定した授業を行ったりした結果であると考ええる。	現在行われている自由進度学習は児童の主体的な学びの姿勢、意欲付けに大いに効果的であると考えた。今後は、さらに充実させるため、児童全員が主体的に学ぶことができるよう、教材研究をしっかりと行い、学習計画表の工夫等を行う。	今年度は、学期に1・2回、自由進度学習等を取り入れるなど、自己選択・自己決定の場がある授業づくりを行ってきた。今後は、さらに充実させるため、児童全員が主体的に学ぶことができるよう、教材研究をしっかりと行い、学習計画表の工夫等を行う。	
			自ら学び、考え、協働して課題を解決する授業づくり 課題の解決に向けて、「自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した児童の割合 <6年生対象全国学力算数調査> 【市共通項目】	85	83	81	95	B	81%の児童が肯定的な回答をしているが、目標値は達成できなかった。児童が、授業における課題を自身の課題として捉え、解決したという実感をもたせる授業を行うことができなかった。	課題解決の実感を持たせることは大切である。先生が子どもたちに力をつけようとしている姿勢は財産である。	単元の導入などを工夫し、児童自身が自分の課題として捉え、学習に取り組めるようにしていく。振り返りを充実させ、課題解決の実感をもたせる。	
			標準学力調査(国語・算数)の平均が60%未満の児童の割合	15		14	100	A	国語・・・13% 算数・・・15% 国語、算数ともに60%未満の児童の割合が15%を下回り、目標を達成した。	達成度100は素晴らしい。学力が低い子は自分で考え、自ら取り組むことについても否定的であるのではないかと見られるとよい。	学習内容のつまずきや個々の学び方を丁寧に分析し、それに応じた手立てを考えた授業づくりをさらに進める。また、学習の難しさがある児童への個別支援を充実させる。	
			「自分で考えて家庭学習を計画的に進めている」と回答した児童の割合	95	86.8	88	93	B	88%の児童が肯定的な回答をしているが、目標値を上回ることにはできなかった。日々の提示された宿題や課題をこなすことに重点がおかれ、自主的に家庭学習をしているという意識をもつ児童が少ないと考える。	達成度93も高くすばらしい。今後は家庭学習とその取り組み方から問われるのではないだろうか。	児童が宿題に自主的に主体的に計画的に取り組めるように、毎日の宿題の内容を自分で決めたり、目標を決めて家庭学習に取り組むなど家庭学習の在り方を工夫する。	
②豊かな心・健やかな体の育成	人の気持ちを考え、行動できる児童を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 「挨拶」の向上に向けて児童の主体的な活動を仕組む 	挨拶が「できている」と回答した児童の割合 <児童アンケート>	95	91	90	95	B	児童アンケートに実施時期においては肯定的評価は90%であったが、3学期となり、委員会における「さがせ150人のあいさつ名人」の活動により、校内にはあいさつが響くようになってきた。	150人のあいさつ名人の企画が素晴らしい。あいさつは学校ではよくできているが、登校時は少ないので、地域でもあいさつできるようにしてほしい。	主体的な挨拶・相手の心に届く挨拶ができるよう、委員会活動等の工夫を行う。また、地域の方と連携してあいさつ名人をさがすなど、挨拶を広げる取組を工夫して行う。	
			自己肯定感、自己有用感を育てる学級・委員会活動等の取組を仕組む 【小中共通項目】	「クラスのみんなや学校の役に立った」「学校が楽しい」と回答した児童の割合 <児童アンケート>	85 95	役80 楽91	役82 楽90	役96 楽95	B	目標値には達成しなかったが、生活目標や各学級・各委員会の取組を工夫して行った。150周年ならではの取組も多く見られた。	150周年企画などすばらしい。学校の取組の成果だと思う。150周年以降もインパクトのある目標をたてて引き続き取り組めるとよい。	今後も、学級活動・委員会活動の工夫を行うとともに、友達を認め合う学級づくりを行う。また、異学年交流を計画的に実施し、児童の自己有用感を育む。
			時間いっぱい自分の持ち場を丁寧に掃除する取組を仕組む。	「児童は時間いっぱい丁寧に掃除している」と回答した児童・教職員の割合 <児童アンケート・教師アンケート>	児95 教95	児92 教90	児94 教94	児99 教99	B	時間いっぱい丁寧に掃除する姿が多く見られる。1月末から縦割り掃除を実施している。	学校の掃除は行き届いていてきれい。子供たちも率先して行動している。リーダー性を育てるために特別活動も大切にしたい。	掃除においては、高学年児童のリーダー性を育てるという視点を持って、実施方法や縦割り掃除の実施時期等を改善する。

③「地域とともにある学校」の創造	学校運営協議会を設立し、地域と学校が連携・協働して教育を進める体制を整える	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間を中心に、児童が地域への愛着を育むことのできる場をつくる 学校運営協議会の効果的な運営がなされるよう、熟議を行って意識統一を図る 	「地域のよさに気づき、地域のためにできることを考えた」と回答した児童の割合 <児童アンケート>	90	89	89	98	B	肯定的回答は、中間と同様89%だった。甘笑応援団の方々の授業支援や子供たちとの交流に加え、生活科や総合的な学習の時間で実際に地域に出かけて地域のことを知ったり、自分が知りたい地域のことについて調べたりする学習を通して、地域への愛着を育むことはできたと考える。	引き続き地域に出ていく学習をしていければよい。今後高齢化が進み、子供と関わる機会も減る。甘笑応援団のおかげでつながりが持てるので、今後も地域と接する機会を増やしてほしい。児童と地域住民が一体となって活動することが大切である。	今年度の授業支援をもとに来年度の年間授業支援計画を作成し、来年度も計画的に行えるようにする。 生活科、総合的な学習の時間を中心に地域への愛着を育み、自分が地域のために何ができるのかというところまで意識した単元づくりの工夫を行う。
④保護者・地域の信頼を高める	働き方改革を推進し、子どもと向き合う時間を確保する	業務の見直しを行う	時間外勤務時間が月平均45時間を超えていない教職員の割合 <在校等時間記録>	80	66.2	65.6	82	B	4月から1月の月の時間外勤務時間が45時間未満であった職員は、全体の65.6%であった。目標値80%に対して、82%の達成度であった。4月5月6月10月の時間外勤務時間が多かったが、月の時間外勤務時間を45時間未満に抑えることができる職員が徐々に増えていった。	業務内容の見直しをして教材研究する時間を確保することは大切である。しっかり情報発信し、理解が得られるようにする。職員は時間の余裕がなすすぎる。職員の数を増やしてあげてほしい。他校、他地域のいい例を取り入れたり参考にしたりしてみたりするとよい。	通知表の所見欄の見直し、成績処理週間の実施、配布物のデータ化など、業務改善を進めていった。 来年度もさらに業務の見直しを行い、職員が児童に向き合う時間を確保するよう努める。また、教職員が日常的に自分の働き方について考えるための研修を実施する。

※ 「評価」の項目については、「達成度」は「報告期の数値／目標値」である。

「目標値」に対する「達成度」をA～Dで評価する。(A:100% B:80%以上 C:60%以上 D:60%未満)

「不登校児童生徒が〇人以内」等逆転項目の評価については、2～4段階で評価できるよう学校で定める。

※ 計画書・中間報告書に上書きしてもよい。

※ 参考資料があれば添付すること。